

研究会開催通知

(昭和 55 年 2 月 15 日～3 月 31 日)

研 究 会	日 時		会 場	備 考
医 療 情 報 学	2 月 16 日 (土)	10 : 00～15 : 00	東 海 ク ラ ブ	前号参照
計算機システムの解析と制御	2 月 21 日 (木)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
医 療 情 報 学	3 月 10 日 (月)	14 : 00～17 : 00	同 上	下記参照
計 算 言 語 学	3 月 14 日 (金)	10 : 00～17 : 00	第 32 森ビル	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	3 月 17 日 (月)	10 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
電 子 装 置 設 計 技 術	3 月 18 日 (火)	14 : 00～17 : 00	同 上	同 上
データベース管理システム	3 月 18 日 (火)	14 : 00～17 : 00	同 上	同 上
記 号 処 理	3 月 21 日 (金)	13 : 00～17 : 00	理 研	同 上
コ ン プ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	3 月 25 日 (火)	13 : 30～17 : 00	東 大	同 上

◆ 第 5 回 医療情報学研究会

(主査：大島正光，代表幹事：稲田 紘，溝口文雄，開原成允)

日 時 昭和 55 年 3 月 10 日 (月) 午後 2 時～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，都営 1 号線大門，都営 6 号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷―東京タワー線東京タワー，等々力―東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車，Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) 睡眠の監視と制御のためのハイブリッド・システム

池田研二 (東大・医)

(2) マイクロプロセッサを用いたリアルタイム呼吸ガスモニタ装置

星宮 望，大庭茂男，松尾正之 (東北大・工)，干木良晴ひと，
大久田和弘，新田澄郎，仲田 祐 (東北大・抗酸菌病研)

(3) マルチマイクロコンピュータシステムの医学応用——心電図不整脈監視システム
福島正勝，久保哲夫，稲田 紘，井上通敏 (阪大・医)

大村皓一，日根修治 (阪大・工)

〔概要〕 (1)～(3)まとめて

最近のマイクロプロセッサおよびマイクロコンピュータの発達は著しく，医学分野でも各種の応用がみられている．今回はこのうち，特に異なった 3 種類の医学データのモニタ・システムに対する応用について取上げ，その有用性と今後の方向に関して論じる．

◆ 第21回 計算言語学研究会

(主査：和田 弘，代表幹事：西村恕彦，田中穂積，野崎昭弘)

日時 昭和55年3月14日(金) 午前10時～午後5時

会場 第32森ビル 地下2階第一会議室

〔東京都港区芝公園 3-4，地下鉄：日比谷線神谷町，都営1号線大門，都営6号線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷－東京タワー線東京タワー，等々力－東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車，機械振興会館並び浜松町寄り徒歩1分，東京タワー向い，Tel. 03 (591) 1351 (大代表)〕

- 議題 (1) ヨーロッパの言語処理の現状 辻井潤一(京大・工)
〔概要〕 昨年11月にヨーロッパの言語処理研究機関を視察する機会を得た。中心的な研究機関の研究状況を報告する。
- (2) 統語処理と意味解釈を同時に行うシステムについて 白井英俊，横尾英俊(東大・工)
〔概要〕 拡張 LINGOL をベースにし，統語処理と意味解釈を同時に行う日本語処理システムを試作した。そこで用いた意味表現形式と処理方式の性能について述べる。
- (3) 日本語の形態素解析について 首藤公昭(福岡大・工)
〔概要〕 日本語の機械処理を行うためのベースとなる形態素解析の方法および考え方について述べる。
- (4) 大規模漢字データの検証——姓名ファイルを用いて 田中康仁(日本ユニパック)
〔概要〕 筆者等は，姓名ファイルをすでに作成している。今回はその一応用として大規模漢字データの検証について報告する。
- (5) 文字の統計 田中卓史(国立国語研究所)
〔概要〕 漢字仮名まじり文を構成する文字を量的に調べ文字の頻度とその文字の用いられる語の数との関係，語を構成する文字の位置などについて報告する。
- (6) 文章解析のアルゴリズム化への試み(続編) 石綿敏雄(茨城大・工)
〔概要〕 テキストを構成するシーンと言語表現の関係，シーンが組み立てられて物語を形成してゆく過程を句構造で表現する試み，文の意味が積み重ねられ，文章が展開されてゆく過程を表示するための動詞の意味の記述法などを述べる。

◆ 第13回 ソフトウェア工学研究会

(主査：国井利泰，代表幹事：大野尙郎，原田賢一，斎藤信男)

日時 昭和55年3月17日(月) 午前10時半～午後5時

会場 機械振興会館 地下3階1号室(所在地は前記参照)

- 議題 (1) コンピュータによる音楽データ処理 山本順人(国立民族学博物館)
〔概要〕 民族音楽を自動採譜させ，音楽データベースとして蓄積し，分析処理を行うシステムについて報告する。

- (2) ゴール・オリエンテッドなプログラミング言語としての一階述語論理について
宇田川佳久，大須賀節雄（東大・宇宙研）

〔概要〕 手続的なアルゴリズムの記述法とゴール・オリエンテッドな記述法とを比較し，述語によるプログラミングが後者の特徴を有することを示す．実験システムの概要と，実験結果について報告する．

- (3) SDD：ソフトウェアの図形表示技術 神田泰典，杉本正勝（富士通）

〔概要〕 ソフトウェアの生産性の向上，信頼性の向上，保守性の向上を目的とする SDD：ソフトウェアの図形表示技術について，ソフトウェアの記述方法，支援ツール，効果を報告する．

- (4) 並列処理シミュレータにおけるプロセッサの制御とその実現環境

大和喜一，戸田賢二，齊藤信男（慶大・工）

〔概要〕 数値計算等で並列処理を基本として展開される数々のアルゴリズムの性能評価，実現の信頼性の検討，さらに基本ソフトウェアの開発を行う道具としてのシミュレーションシステムに関する要求とその実現方法について述べる．

- (5) HIPO 作成期間に於る工数と期間の関係の分析 板倉 稔（富士通）

〔概要〕 工数（人月）と期間の関係について，定量的な分析を試みたものである．当該プロジェクトに於る経験と，労働生産性の関係から，工数と期間の関係を導く．

- (6) プログラム規模見積り関数の推定とその評価

板倉 稔，高柳亮生（富士通）

〔概要〕 プログラム規模見積り過程を客観化するための手法として見積りを関数で表現する試みを行った．この手法および関数に関する紹介および評価を行う．

◆ 第4回 電子装置設計技術研究会

（主査：加納 弘，代表幹事：中林 撰，伊藤 誠）

日時 昭和55年3月18日（火）午後2時～5時

会場 機械振興会館 6階 65号室（所在地は前記参照）

議題 (1) LSI 機能ブロック自動レイアウトシステム (PLASMA)

永谷三義，宮下 弘，岡本秀孝，円生和男，杉山 吉（日電・武通研）

〔概要〕 高密度，高性能な VLSI 機能ブロックを設計するためのレイアウト自動設計システムについて報告する．

(2) マイクロプログラム記述の汎用化の一手法

山田昭彦，佐々木徹，高橋萬年，高橋悦男，

尾藤龍茂，青山正義，林 孝雄（日電）

〔概要〕 高級言語風記述およびマクロ記述等によって，超大型コンピュータからマイコンまでの各種マイクロプログラムの設計を効率的に支援するために開発した手法と，その適用例について紹介する．

(3) 設計記述言語 HDL/Y とマクロ素子

河野 豪，和田義弥，伊藤 誠（山梨大・工）

〔概要〕 論理回路記述言語と機能ブロック表現であるマクロ素子を定義し、言語よりマクロ素子へのコンバータを開発した。

◆ 第 18 回 データベース管理システム研究会

(主査：穂鷹良介，代表幹事：植村俊亮)

- 日 時 昭和 55 年 3 月 18 日 (火) 午後 2 時～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
- 議 題 (1) DB/DC データ・ディクショナリ 森本寿彦 (日本アイ・ビー・エム)
〔概要〕 DB/DC データ・ディクショナリの概要と、データベース設計への利用方法について述べる。
- (2) PRIDE—ASDM (Automated System Design Methodology) の設計への適用 松平和也 (日本システムックス)
〔概要〕 システム設計法「PRIDE」と「LOGIK (DD/D)」のシステム分析・設計への活用法について紹介する。
- (3) データ・ディクショナリを用いたデータベースの総合支援システム 木村淳美，近藤秀文，中村史朗，吉田郁三，加藤 孝 (日立)
〔概要〕 データ・ディクショナリを中心として，要求分析，設計から運用までを統一的に支援するシステムの現状および将来構想について述べる。

◆ 第 11 回 記号処理研究会

(主査：淵 一博，代表幹事：竹内郁雄，佐々木建昭，田中穂積)

- 日 時 昭和 55 年 3 月 21 日 (金) 午後 1 時～5 時
会 場 理化学研究所 レーザー棟会議室
(昼食には理研の食堂をご利用ください。)
〔埼玉県和光市広沢 2-1，東武東上線，和光市駅 (池袋より準急で 14 分) 下車，徒歩 15 分，Tel. 0484 (62) 1111〕
- 議 題 (1) 非決定的プログラム言語，プロセッサとしての分散処理アーキテクチャ 田村浩一郎，田島裕昭，岡田義邦 (電総研)
〔概要〕 非決定的プログラム言語のハードウェアプロセッサとして，先バスデータ放送方式のアーキテクチャを提案する。
- (2) リストの構造にもとづくリスト処理の記述及び処理の方法 植田健治 (慶大・工)
〔概要〕 複雑なリスト処理を表現するためのひとつの方法を示し，それによって記述されたプログラムの処理法を述べる。
- (3) 記号行列式に対する効率的にガウス消去法 佐々木建昭 (理研)，村尾裕一 (東大・理)
〔概要〕 多変数多項式を要素とする行列式に対して，BAREISS のアルゴリズムを改善した効率的な方法を考案した。
- (4) LISP—based “Big-Float” System in not Slow 金田康正 (名大・プラズマ研)，佐々木健昭 (理研)
〔概要〕 LISP で書いた我々の認意制度浮動少数演算システムと，FORTRAN で

書かれたシステムの性能が決して見落とししないことを示す。

◆ 第5回 コンピュータビジョン研究会

(主査: 福村晃夫, 代表幹事: 高木幹雄, 鳥脇純一郎, 田村秀行)

- 日時** 昭和 55 年 3 月 25 日 (火) 午後 1 時半～5 時
- 会場** 東京大学・生産技術研究所 第 3 部輪講室
〔東京都港区六本木 7-22-1, 地下鉄: 千代田線乃木坂下車徒歩 2～3 分, 日比谷線六本木下車徒歩 5～10 分, Tel. 03 (402) 6231〕
- 議題**
- (1) 画像メモリの構成法 竹本 毅, 高木幹雄 (東大・生研)
〔概要〕 画像処理, 画像入出力の多様な用途に対応した融通性, 拡張性のある画像メモリの構成法について論じる。
 - (2) 多面体透視図の大域的構造の解析 杉原厚吉 (電総研)
〔概要〕 多面体を描いた線画の代数的・組合せ論的構造を明らかにし, 線画解析のための実用的手法を確立する。
 - (3) SPIDER 開発を通してみたデジタル画像処理アルゴリズムの現状 (4)
——テクスチャー解析—— 富田文明, 田村秀行 (電総研)
〔概要〕 サブルーチン・パッケージ SPIDER の開発経験をもとにデジタル画像処理分野の主要な話題をいくつか概観する。今回は, 最近の論文発表が極めて活発なテクスチャー関連の研究をサーベイする。
 - (4) 画面分割法による三次元物体表示および遠近処理
西田友是 (福山大・工), 中前栄八郎 (広大・工)
〔概要〕 データ量の多い三次元図形の高効率な陰影処理および隠線消去法と, その遠近処理方法について述べる。
 - (5) 東大・生研・多次元画像情報処理センタの見学

マイクロコンピュータ研究会

- 日時** 3 月 24 日 (月) 午後 1 時半～5 時
- 会場** 機械振興会館 地下 3 階 2 号室
- 議題**
- 16 ビットプロセッサ 68000
 - マイクロプロセッサによる音声合成
 - その他

なお詳細は次号 (VoL. 21 No. 3) に掲載いたします。

コンピュータビジョン研究会

第 6 回研究会を 5 月, 名古屋にて開催の予定です。講演ご希望の方は 3 月 1 日までに事務局研究会担当までお申込み下さい。

人工知能と対話技法研究会

次回研究会は 5 月 19 日に筑波・電総研において開催いたします。当日は研究発表と見学を予定しております。講演ご希望の方は 3 月 1 日までに事務局研究会担当までお申込み下さい。

情報処理学会創立 20 周年記念事業について

20 周年記念事業実行委員会

本学会が創立総会を行ったのは、昭和 35 年 4 月 22 日であり、したがって、今年、昭和 55 年には創立 20 周年を迎えることになる。この 20 年の間に、電子計算機を中心とした情報処理に関する学術・技術の進歩・発達は極めて著しいものとなっているが、本学会は、この間、一貫して常にその発展に寄与し続けてきた。会員数も毎年増加し、現在、14,000 名を数えており、会員の活動もますます活発で、名実ともに日本の代表学会となっている。そこで、創立以来 20 年の間に蓄積されてきた会員の研鑽の成果を結集して、情報処理の各分野における一層の発展に寄与するために、今年を目途に、創立 20 周年記念事業を行うこととし、準備を進めてきた。

一方、当学会は、創立当初から IFIP（情報処理国際連合）とは密接な連繫を保ちながら国際的な活動を行ってきたが、本年 10 月には、第 8 回世界コンピュータ会議（IFIP Congress 80）を、東京およびメルボルンで開催するに至った。このことは、当学会の発展を物語る一つの現われであり、IFIP Congress 80 の開催自体が大きな記念事業であると考えることができる。

昭和 50 年 7 月の理事会で、20 周年記念事業を行うことを決定して以来、周到にその準備を進めてきたが、現在では、20 周年記念事業実行委員会が中心となって事業を進めている。この委員会は、猪瀬博氏を委員長として構成しているが、学会の理事会ならびに諸委員会と密接な連繫をとりながら記念事業の総合的な調整と実行を進めている。

企画に当たっては、20 年の経過を振り返るとともに、将来の発展に寄与しうること、若い会員に刺激を与える機会とすること、全会員に何等かの形で記念事業の内

容が還元できることなどを重視した。また、実行に当たっては、IFIP Congress 80 を盛り立てうること、若々しい学会の力をこの事業に思い切り注ぎ込みうることを念願とした。

記念事業は、着々と実行に移してきているので今回、会員諸氏にご案内するとともに、今後のご協力をお願いする次第である。なお、詳細は、必要に応じて今後本欄にて会告してゆく予定である。

1. 記念式典，特別講演，記念パーティ

記念式典，特別講演および記念パーティを、昭和 55 年 5 月 20 日（火）に東京会館（東京都千代田区）で、55 年度通常総会に引続いて行い、翌 21 日（水）から 3 日間にわたり、記念全国大会を日本都市センターと同周辺（千代田区平河町）で行う。（下図参照）

(1) 記念式典（午後 3：00～4：00）

- ① 会長式辞
 - ② 記念事業経過報告
 - ③ 来賓祝辞
 - ④ 感謝状贈呈
 - ⑤ 表彰状授与
 - ⑥ 記念論文選考委員長報告
- (2) 記念講演（午後 4：10～5：30）

講演者 永井 道雄 氏

題 目 新世界情報秩序への道

(3) 記念パーティ（午後 6：00～8：00）

会員の参加は自由であり、多数の参加を希望するが、記念パーティのみは会費制とする。

2. 記念全国大会

と き：昭和 55 年 5 月 21 日（水）、22 日（木）、

時刻		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
月 日													
5 月 20 日（火）								通常 総会	記念 式典	記念講演			記念パーティ
5 月 21 日（水）～5 月 23 日（金）：20 周年記念全国大会													

23 日(金)

場 所：日本都市センタ，全共連会館，都道府県
会館および麴町会館（東京都千代田区）

特別講演：林 雄二郎氏「社会の成熟化と情報化社会」

招待講演：エバンス氏（IBM），坂井利之氏（京大）

パネル討論：元岡 達氏（東大）他

受賞記念論文の講演発表：一般講演の該当するセッション中で発表する。

大会委員会（委員長 高橋副会長）が中心となって企画，運営に当たっている。

3. 記念論文の公募

会員から，第1部門（若い会員を対象とする）および第2部門（第1部門以外の会員）に分けて公募したところ，あわせて 54 件の論文が応募された。編集委員など多数の会員の協力により，記念論文査読委員会，記念論文選考委員会（委員長 相磯秀夫氏）で慎重に選考を進め，その結果にもとづいて，記念事業実行委員会・理事会で受賞論文を決定した。

選考結果は，20 周年記念式典において公表するとともに，その著者を表彰する。また，受賞論文は，20 周年記念会誌に掲載するとともに，一般講演の中の該当するセッションにおいて講演発表する。

4. 記念会誌の特集

（1）学会誌「情報処理」

第21巻5号（昭和55年5月号）を，20 周年記念特集号とする。

20 年間における学会の変遷，情報処理分野における今後の展望と課題などについての多数の論文，座談会などに加えて，20 周年記念論文の選考経過ならびに，8 編の受賞論文を掲載する。

現在，会誌編集委員会（委員長 榎本常務理事）が中心となって編集を進めている。

（2）欧文誌「Journal of Information Processing」

第4巻1号（1981年1月号）を IFIP および IPSJ 20 周年特集号として編集するよう，欧文誌編集委員会（委員長 後藤常務理事）が中心となって，検討中である。

5. 情報処理叢書の刊行

この叢書は，現在，情報処理の研究・開発分野の第一線で活躍している気鋭の著者群により最近の最高技術をを紹介することを目的としている。したがって，本学会の研究会，研究委員会の活動とも密接な連携をもって計画がすすめられている。

最新技術を速やかに世に送り出すため，比較的小冊子スタイル（A 5判 100 頁）とし，第1期および第2期に分けて，出版される。

第1期

- 1) 医療情報学（開原，稲田）
- 2) コンピュータ・ネットワーク技術（猪瀬，苗村，田畑，浅野）
- 3) ソフトウェア工学(I)（国井，斉藤，原田）
- 4) データベースマシン（植村，前川）
- 5) 記号処理の基礎と応用（後藤）
- 6) データベース理論（有沢）

第2期

- 1) ソフトウェア工学(II)（国井，斉藤，原田，大野）
- 2) データベースの理論設計（穂鷹）
- 3) 計算機システムの性能解析(I)，(II)（高橋，亀田，益田他）
- 4) 情報意味論（淵）
- 5) 論理装置の CAD（樹下行三他）
- 6) 数式処理（佐々木，渡辺）

この叢書の刊行は，20 周年記念叢書委員会（委員長 高島堅助氏）が中心となって推進している。

6. 新版情報処理ハンドブックの発刊

世界的な視野において，最新の情報を網羅し，最も信頼すべき指針を提供するものとして，新版情報処理ハンドブックの刊行が計画された。このために新版情報処理ハンドブック委員会（委員長 北川敏男元会長）が設置され，企画・実行に当たってきた。各分野の第一線で活躍する研究者ならびに技術者総勢約 200 名が執筆に当たり，2 年余の編集作業を遂行して，本年3月に刊行の運びとなった。定価 2 万円（B 5判 1,250 頁）であるが，今年2月末を締切期限として会員に限り 15,500 円の特価で予約を受け付けている。

予約締切迫る!!

「新版情報処理ハンドブック」予約募集案内

- 発 行 昭和 55 年 3 月
●定 価 20,000 円 (箱入上製本 B 5 判 1,250 ページ)

会員予約

- 申込締切期限 昭和 55 年 2 月末日
●予約特価 15,500 円 (但し送料別)
●申込方法 学会誌 20 巻 10 号 (昭和 54 年 10 月号) 後付にとじ込みの郵便振替用紙が申込用紙となります。必要事項をご記入の上お申込みください。なお、申込用紙を必要の方は、50 円切手同封の上、学会事務局までご請求ください。
- 払込みについて 予約はすべて前金一時払いをお願いします。(分割払いはお引受けできません)
- 送本先変更 予約申込後送本先が変更した場合は「ハンドブック送本先変更」と明記してハガキで事務局までご連絡ください。
- 送 料(書留) 1 部につき 東京都内 23 区 650 円
その他 850 円
但し、北海道・山口・九州・沖縄 1,000 円
- 申 込 先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内
社団法人 情報処理学会 電話 (03) 431-2808

会員外予約

会員外の方は、最寄りの書店にお申込みください、
(予約特価 18,000 円 (但し送料別))
申込締切期限 昭和 55 年 2 月末日

昭和 55 年度会費納入について

昭和 55 年度会費を請求いたしますので、添付の振替用紙によりご納入ください。

正 会 員 費 7,200 円
学生会員費 3,000 円 (大学院修士課程まで)

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、率先してご納入いただきたく存じます。

なお、54 年度会費未納の方で、2 月末までにご納入いただけない場合には、3 月号から会誌の送付をストップいたしますので充分ご注意ください。

欧文誌の原稿募集について

1978年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ、A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、Paper と Short Note を募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限り)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

Paper と Short Note の和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paper のアブストラクト——200語以内

(ii) Short Note のアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000